

スラブの施工方法による違い

スラブの種類	梁底	縦栈木	備考
在来スラブ	小面でもOK	不要（※高さ600mm超は必要）	通常のベニヤスラブ。荷重は支保工で受けるため梁への負担が少ない。
デッキスラブ	大面	必要	スラブの荷重が梁側に直接かかるため。ベニヤ厚（12mm）を引かない。
ペコビームスラブ	大面	必要	同上。スラブ高さから12mm引く（ペコビーム厚分）。

- ・ 在来スラブ→昔ながらのベニヤで張ったスラブ。受けはパイプサポート
- ・ デッキスラブ→薄鉄板で、できたスラブ。受けは梁側のみ
- ・ ペコビームスラブ→伸び縮みする、鉄製の梁の上にベニヤを張ったスラブ。受けは梁側のみ

注意：ここで紹介している内容は、筆者（ナオ）の現場経験に基づく一例です。型枠の施工方法は現場の条件・元請けの指示・施工計画によって異なる場合があります。実際の施工では必ず現場の指示や安全基準を優先してください。